

ニアラズシテ實地的ヨリ產出シタル腦力ヲ以テ爲シタル技ナリ而シテ歐米各國ノ工學ト雖
ニ其定式トナルノ原因ハ皆實地的ノ經驗ニ幾回ノ改良ヲ加ヘタル結果ノ公式ナリ吾國固有
ノ建築土木ノ工法ハ區々ニシテ一定ナラサルノミナラズ改良セサルガ故ニ公式トナラズ此
レ歐米諸國ノ技倅ニ一步ヲ讓ル所ナリ然ソト雖凡吾國往時ノ技倅モ輕侮スルモノ、ミニア
ラズ依テ學識外ニ關スル技能モ必要ヲ感スル「ナキニシモ非ズ爲メニ不肖記憶スル所ノモ
ノヲ摘集シテ土木技術合財袋」テフモノヲ茲ニ掲載シ同窓諸士ノ参考ニ供ス予カ微意諸士ノ
工務ニ就キ細心ノ一端トナラバ幸甚

拔萃

○西伯利鐵道將來ノ概況

露西亞政府ハ既ニ三億五千万ループルヲ支出シテ鋼製ノ軌
條五千哩ヲ西伯利線路ニ敷設セリ惟フニ一千九百四年七月一日ニ至ラハ北海岸ヲ發シテ日本
海岸ニ疾走スル機關車ヲ見ソト必セリ又今後十八個月以内ニ列車ハ西伯利線路ヲ疾走シテ
黒龍江ニ達シ其ヨリ乗客小包郵便及船貨ハ快進ノ汽船ヲ以テハバロフカニ送致セラレ其ヨ
リ西伯利線ノ南露支線ニヨリテ十八時間ニ浦潮斯德ニ達スヘシ然ルトキハ倫敦ヨリ浦潮斯
德ニ到ルノ距離ヲ十七日半程トナスヘキナリ若此今後數個年ヲ經テ百事整頓シ列車高度ノ
速力ヲ得テ西伯利ヲ横行スルノ日ニ至ラハ全線路ノ旅行ハ九日ト二時間ニテ完了スヘシ
那ノ准許ヲ經テ敷設セラル、滿洲貫通ノ新線路ハ著シク旅程ヲ短縮スヘシ而シテ此新線路

(月七年一十三治明)

ハ後貝加爾鐵道ノオノン停車場ヲ起點トナシ舊ツルハイトノ近傍ヨリ支那國彊ヲ截断シテ
滿洲ニ入り齊々哈爾呼闐城及寧古塔ノ方位ニ進行シ終ニ烏蘇里南部鐵道ノニコルスク停車
場ニ接合スヘシ故ニ此滿洲鐵道ノ全長ハ千九百二十「ウエルスト」ニシテ此内千四百二十五「ウ
エルスト」ハ支那領内ニアルヘシ西伯利線當初ノ測量ニヨレハ「オノン」ニコルスク兩停車場間
ニ於ケル線路ノ長サ二千三百三十四「ウエルスト」ナリシモ右ノ如ク滿洲ヲ貫通スレハ西伯利
鐵道全体ニ於テ四百十四「ウエルスト」ヲ短縮スヘシ此他滿洲線ハ以前ノ黑龍江方向線ヨリモ
更ニ南方ニ向ヒ前線ニ比スレハ氣候溫暖地味膏腴ノ地方ヲ貫通シ且又穀類豐盛ニシテ黑龍
口地方ニ麵包ヲ供給スルニ松花江谷ヲ橫斷スヘシ概言スレハ此新線路ノ中斷スヘキ滿洲ノ
北部ハ天賦ノ財源ヲ有シ鐵礦ニ富ミ近年ニ至リテ金礦ノ採掘ニ着手セリ又滿洲地方中此線
路ノ貫通スル所及其近傍ニハ數多ノ通商的大中心アリ(英國商務院月報)

(T.N.)

○電氣撒水車　近時米國ニ於テハ水ヲ市街ニ撒布スルニ電車ヲ用ユル「普ネク行ハル」
由ナルガ最新式ノ撒水トロリー車ハ二万五千「ガロン」ノ水ヲ容ル、ニ足リ放水器ハ電力ニテ
之ヲ回轉シ五十呎ノ遠距離ニ水ヲ撒布スルヲ得ベク又撒水區域ノ廣狹ハ即時ニ増減シ得ル
ノミナラズ其水量ヲモ増減シ得ル仕掛アリテ街路ノ廣狹又ハ電車速度ノ變スルヲアルモ即
時之ニ適應スルヲ得且必要ノ場合ニ於テハ全ク撒水ヲ中止シ得ルナリ電車ノ兩側ニハ之ヲ
シテ何レノ方向ニモ運轉セシムル裝置アリ車中ノ放水器ハ四個ノロールヲ具フル砲銅製回
轉唧筒ニシテ水ノ流出ヲ制調整スル調整器アリ又放水器ノ運轉ハ示差齒輪電動器ノ司ル所ニ
シテ電車ノ運動ト毫厘ノ關係ヲ有セズ而シテ電車ノ前後両部ノ下ニ別ニ通常ノ撒水器一個